

事業区分	文化芸術事業	育成・創造事業					
事業名	ととりの芸術宅配便						
目的・内容	<p>県内の小中学校、特別支援学校等に県内のアーティストを講師として派遣し、鑑賞型、体験型の公演やワークショップ等を実施し、子どもや青少年の文化芸術体験の充実を図る。また、創造的な未来と次世代の育成のため、教育と交流の視点から基盤整備を図る。本事業を通じて、将来の芸術文化の担い手や鑑賞者を育成し、文化人口を拡大する。</p> <p>【使命】「文化芸術活動の発信と交流」「文化人口の拡大とレベルアップ」「多彩な人材育成とキャリア開発」「子どもの文化芸術活動の推進」を使命として、子どもたちに文化芸術活動を鑑賞・体験する機会を提供する。</p> <p>【事業計画の柱】「子どもや青少年のための文化芸術活動の充実」「文化活動者との協働による自主制作事業の推進」「鳥取県内外の人財を活用した事業の推進」の達成するために実施する。</p>						
開催時期	平成25年6月～平成26年2月(62回/小学校47校、中学校4校、特別支援学校6校、公民館5か所)						
会場	県内小中学校、特別支援学校、公民館						
参加費	無料	※その他収入:文化芸術振興費補助金(文化庁):1,759,730円					
実施状況	総体験者数	7,926名	実施ジャンル	吹奏楽6回、声楽7回、和太鼓8回、アフリカ民族音楽6回、ゴスペル6回、邦楽3回、弦楽器1回、ヒップホップダンス10回、オーケストラ1回、管楽器1回、演劇・人形劇6回、朗読2回、韓国民族音楽3回、ストリートダンス2回			
	講師研修 12/4	講師:柏木陽(鳥取大学ワークショップデザイナー講座) 受講者:6名、会場:明治小学校体育館	講師意見 交換会 3/6	参加講師:13名	財団:3名		
事業費状況	予算額	収入	0円	支出	4,981,000円	収支比率	—
	決算額	収入	1,759,730円	支出	3,743,041円	収支比率	47%
参加者アンケート(主なもの)	<p>[生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌を聞いていると歌の世界が見えて、歌が変わるたびに見える世界が変わる、そこが楽しかったです。高い声の時、気持ちのいい感じが声が出るよう今回の実施を参考に、もっと歌がうまくなるよう努力したいです。(声楽) みなさんの歌がとてもすてきでした。みなさんの歌を聞き、ほくはゆうきをもらえた気がしました。ほくたちもみなさんのようにがんばりたいです。またすてきな歌を聞かせてください。(ゴスペル) はじめドンドンと音がしてびっくりしました。きいているとかかってに体が少し動いてしまっ、ずっと聞いているとのりのりになって、とても楽しかったです。曲を聞いて韓国はにぎやかで楽しいところなんだなと思いました。(韓国民族音楽) 日本の文化に触れることができて、とてもいい経験ができました。和太鼓はとても迫力があり、見ている人をわくわくさせてくれました。みなさんが笑顔で楽しみながらやっていて、見ている私も笑顔になりました。(和太鼓) <p>[先生]</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供たちは演奏される方、歌われる方を食い入るように見ていました。本物の素晴らしさに改めて感動しているようでした。 どの子も初めての経験と心ゆさぶる音楽だったため、とても感動を覚えていました。知っているはずのない曲ですが、体の奥からわきあがるリズムに乗って、とても楽しんでいました。(アフリカ民族音楽) 和楽器は生の演奏を聴いたり、楽器を覗いたりする機会が少ないので、その分驚きや感動が大きかったと思います。楽しくもったしかつたと、終わった後の感想文に書く子が多かったです。(邦楽) 「最後まであきらめない」という約束をして、子どもたちのやる気を引き出してくださったことがとても良かったです。その後の学校生活の中でも、粘り強く取り組む子どもが少しずつ増えてきたように思います。(ヒップホップダンス) 						
1次評価(内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の日ごろの学習の補完となるような体験活動を取り入れられており、生きた教材として学校教育の中に位置づけられることが多くなっている。 昨年度の講師オーディションにより今年度から4名の講師、3つのジャンルが増え、学校側の選択肢が増えた。 学校、講師、担当(財団)3者の事前打ち合わせを細かく行い、より学校のニーズにこたえられることのできる内容で実施できた。 鳥取大学との連携による講師研修会の実施、講師と財団による意見交換会、これらを実施し、講師のスキルアップ、問題点や意識の共有化を図ることができた。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> “より多くの学校へ”という考えのもと1校1回という実施条件を設けているが、大規模校に多い学年を分けて実施したいという要望に対応できていない。 担当(財団)のコーディネイト力、講師のスキルアップのためのプログラム、相互の情報共有・意見交換の場がさらに必要。 ジャンルの多様化に伴い、本事業そのものの目的・方向性に対する再確認の時期ではないかという意見があり、事業名にもある“芸術”そのものに対するとらえ方を含めて再認識、再確認していくことが必要。 						
2次評価(財団評議員)	<p>[事業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ととりの芸術宅配便は、県内の小中学校・特別支援学校等に県内アーティストを講師として派遣し、解説付きの鑑賞公演や体験型の公演、ワークショップなどを開催する事業。子どもたちの「健全な育成」「心の健康の向上」「将来の文化芸術の担い手・鑑賞者の育成」を図ることを目的としている。概要及び目的について、妥当である。 新規参加者の比率は目標を下回っている。 <p>[事業プロセス]</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施確認書に基づき、実施当日の会場運営、進行がとてもスムーズで、準備段階から事務局スタッフと学校職員の皆さんとのあいだで十分な打合せができていたように感じられた。 <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めて本格的な声楽とピアノ演奏に触れた子どもたちの驚きを感じられ、将来の文化芸術の担い手として貴重な経験となった。絵本『スイミー』の内容と伝導した声楽は、低学年の子どもたちにもわかりやすい内容だった。低学年児童の鑑賞態度もよかった。 リポーターが多いというのは、今までの活動実施はよい成果を挙げたと理解している。既存参加者を確保することは新規開拓にもつながるので、引き続き一回一回の実施を大切にしたい。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業は、学校という空間で本格的な芸術に触れる機会を提供する貴重な事業。児童生徒に芸術文化との出会いの場を提供し、将来の鑑賞者、芸術文化の担い手を育成するものであり、今後とも継続実施を希望する。 1校につき1回の実施にこだわる理由がわからないが、事業拡大(新規参加校を増やす)という目標と実力があるならば、当面人数が多い学校には数回の開催も検討することはできないだろうか。 講師の研修参加意識が低いようだが、その理由がわかれば対応しやすいと思う。アンケートなどを用いて調査を行ってはどうか。 						
今後の対応、取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 事前の各ジャンルの最適対象人数の明記、学校独自のワークシートによる事前学習、3者の事前打ち合わせを充実させ、より学校のニーズにこたえられる形での実施ができるようコーディネイトしていく。 財団、講師に対する研修や、講師の意見交換や他講師事業の見学をより促進し、それぞれのレベルアップや意識の統一を図るためのプログラムを推進していく。 財団にとって中核的で重要な事業であることは間違いないと思われるが、文化芸術のとらえ方、本事業のミッションの再確認等、事業そのものの見直しが迫られている。平成26年度はそのための検証の1年としたい。 						